



添嶋文庫「ひとりになりたい。」

「ひとりになりたい」

わかりきった冗談なら最後まで  
そうじゃないなら今すぐどこか行って  
こまいった遊びにつきあえるほど  
暇じゃないし目きわりだし  
忘れられたところに会うことになったら  
その時はまた最初から  
知らない人として話もできるでしょう  
手をふる 笑う 背中を向ける  
そんな簡単なものじゃないけど 今は  
ひとりになりたい

( ことがりだなああって自分でも )

添嶋文庫 <http://literary-ace.littlestar.jp>  
literary-ace@kollittlestar.jp

二〇一五年三月一五日発行  
著者 添嶋謙  
発行 言葉の工房  
無断転載はご遠慮ください。



添嶋文庫「ひとりになりたい。」

「ひとりになりたい」

いつも一緒にいて仲が良いのね  
近所のおばさんと言われて全力で否定する  
その顔を見てたらおかしら  
つこ

ぼんとはちいさい頃に似た約束を  
律義にまもってくれてるだけだっけ知ってる  
別に忘れたことしたってよかつたのに  
そうとうとそういうわけにはいかないんだ  
という、意外性のある、予想通りの答え  
もうあのの子のことはいいんじゃないかな  
ひとり背負うようなことじゃないだいいち、  
解決方法は一つしかなくて、これじゃないし  
他の誰もそんなんでなんかないのだから

ここから飛べって言ったのは  
あいづらだ  
するわけなんかないのだから  
うまく電車の屋根に飛び乗れたら  
遠くまで運んでもらえるだろうか  
そんなわけないか  
どこか行きたいな  
誰も知らないところ  
まだ最初から  
まだ最初からっていつも思うけど  
うまくいったことないから  
今くらいは  
もしかしたら 今なら

この道をまっすぐ行けば  
好きな人の家まで行くよ  
まだ誰にも言っただことはないけど  
戸惑さついなあつて笑ってくれる  
ならその方がいいのに  
( 遠くから君が来るのが見える )  
( 隠れてもすぐにはれるから )  
( ここを歩くのは好きじゃない )  
町全体に拒否されてる感じ  
居心地が悪心  
( 頭をぼん、と叩かれる )  
( それは気のせい、の台詞 )

「願い事をみつかなきゃよ」  
「今すぐ消えるかひとりになるか」  
「なにそれ」  
「それが、みんなと一緒にがいい。  
からかわれたり笑われたりしない  
普通な感じで」  
「意味わかんねえよ」

「ひとりになりたい」

「ひとりになりたい」